

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	国際・災害看護				開講期間	5月	
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	15
使用教科書	看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学				出版社	医学書院	
授業のねらい	世界規模の健康問題を知り、国際協力の視点を持つことは重要である。その上で国際的に活躍している看護師の活動を通し、文化的背景の違いと看護について知り、国際的視野の理解を深める。 災害に対する政策を知り、災害の分類、災害時の健康障害、P T S Dなどの災害後の心の状態とケア、トリアージの方法、災害時のアセスメントなどについて学び、災害時の看護に対する責任と役割を理解する事をねらいとしている。						
到達目標	1.世界規模の健康問題を理解する。 2.看護活動による国際協力について知り、広い視野で将来の看護展望を考えることができる。 3.災害に対する制度、政策、組織について理解する。 4.災害における看護の役割を理解する。 5.災害現場において具体的な看護活動を知る。						
評価基準	終講試験（100％）						

回	講義内容	教授方法等
1	国際看護の概念	講義
2	国際間の必要性	講義
3	日本の看護職による国際協力	講義
4	保健医療の現状と対策	講義
5	災害医療の基本と概念	講義
6	災害の特殊性と災害発生時の体制	講義
7	災害現場での活動と役割と健康被害	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	看護マネジメント				開講期間	4月～9月	
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	30
使用教科書	看護の統合と実践 1 看護管理				出版社	医学書院	
授業のねらい	看護は対象の個性性に特化され、24時間ケアが提供される。しかし、看護師の活動はチーム医療の中で役割を求められ、組織を無視して活動することはできない。看護を取り巻く大きな組織の存在意義、目的、医療経済活動、それらに関する制度政策などを学習する。また、病院・病棟の組織決定プロセス、組織の行動理論も学習し、マネジメントは看護管理者のみが担うものではないことを理解する。加えて医療の経済基盤、診療報酬制度は医療の質を担保することは医療活動にとって不可欠で重要な要素であり、初学者としての経営視点を持つ意義を学ぶ。						
到達目標	看護管理実践に必要な知識・技術が理解できる。						
評価基準	終講試験（100％）						

回	講義内容	教授方法等
1	看護管理の定義と構成要素	講義
2	看護におけるマネジメントとは	講義
3	看護ケアのプロセスと患者の権利	講義
4	安全管理の意義と医療事故対策	講義
5	チーム医療と多職種連携	講義
6	看護業務の実践	講義
7	看護職のキャリアマネジメント	グループワーク
8	看護サービスとその提供システム	講義
9	看護人材のマネジメント	講義
10	はたらく環境のマネジメント	講義
11	組織のリスクマネジメント・医療サービスの評価	講義
12	マネジメント手法	グループワーク
13	組織の調整	講義
14	看護活動をとりまく制度・政策	講義
15	まとめと終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	看護研究				開講期間	4月～10月	
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座別巻 看護研究				出版社	医学書院	
授業のねらい	実践の科学である看護行為を他者と共有し、学術知識や実践知識を発展させるためには看護研究による実証が不可欠である。研究とは系統的な探求であり、探求の基礎的な知識と手法を学び展開方法を知ることがを目的とする。また、研究の倫理的姿勢、先行研究・文献検索の手法も学ぶ。臨地実習の事例をとおし、自己の看護ケアを検証することで初学者としての研究のプロセスを学習する。また、演習を通じて研究発表の態度を体現する。						
到達目標	1.看護における研究の意義を理解する。 2.研究の基礎的手法を理解する。 3.研究計画書の作成ができる。 4.研究的態度を養い、研究成果の発表ができる。 5.抄録の作成ができる。						
評価基準	終講試験（40％）レポート（20％）研究計画書の作成（20％）研究成果の発表（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	研究とは 研究のステップ 研究計画書 量的・質的研究	講義
2	倫理的配慮 論文クリティーク	講義
3	課題の明確化 自己の実習を振り返る	講義
4	課題の明確化 課題の提出	講義
5	計画 目的 目標	講義
6	方法 医学中央雑誌検索	講義
7	看護研究計画書作成	講義
8	看護研究計画書作成	講義
9	看護研究計画書作成	講義
10	文献カード作成	講義
11	計画書 文献カード作成	講義
12	計画書 文献カード提出	講義
13	抄録の作成	講義
14	抄録の作成	講義
15	抄録の作成	講義

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	統合看護実践技術				開講期間	7月～9月	
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理				出版社	医学書院	
授業のねらい	看護の現場を意識し、看護学生から看護師としての役割を疑似体験することで、数か月後に想定される臨床現場での基礎教育とのギャップやリアリティーショックの軽減を図る。 また、臨床の場で求められる看護実践を、対象に安全・安楽に提供できるよう、事故防止の知識・技術を学ぶ。						
到達目標	1.多重課題（複数受け持ちや突発事象）を解決するための優先度を理解する。 2.複数受け持ち患者の援助計画の立案と実施ができる。 3.突発事象（予期しない事案）に対し、安全・安楽を確保した援助が実施できる。 4.多重課題に対し、チーム・他職種連携を考慮した援助を実施できる。						
評価基準	課題成果物80% 技術演習20%						

回	講義内容	教授方法等
1	看護の統合とは	演習
2	統合看護実践の特徴	演習
3	複数受け持ち患者の情報収集、状況判断	演習
4	複数受け持ち患者の優先度を考えた行動計画の立案	演習
5	複数受け持ち患者への援助	演習 (実習室)
6	複数受け持ち患者への援助の実施・評価	
7	多重課題・突発事象に対する必要で安全な援助	演習 (実習室)
8	多重課題・突発事象に対する必要で安全な援助の実施・評価	

東京墨田看護専門学校実習要項

実習名	地域・在宅看護論実習Ⅱ			時期	3 年次
目的	1.在宅で療養する人とその家族に看護を行うための基本的知識・技術・態度を養う。				
目標	1.在宅で療養する人とその家族が置かれている状況や背景の多様性を理解する。 2.在宅で療養する人とその家族の心身の健康状態や生活状況をアセスメントし、支援の必要性について理解する。 3.在宅で療養する人とその家族の価値観やニーズを理解する。 4.訪問マナーを守り、在宅で療養する人の価値観を尊重したうえで看護を実践する。 5.在宅で療養する人の生活を維持していくための在宅における看護の特徴や看護師の役割を理解する。 6.在宅で療養する人の健康の保持・増進、生活維持のために活用できる社会資源や保健医療福祉チームの連携を理解する。 7.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90
学習方法					
訪問看護ステーション実習					
実習目標			学習内容		
1.在宅で療養する人とその家族が置かれている状況や背景の多様性を理解する。			1)在宅療養者と家族 ①住宅・居室環境 ②居宅の意義 ③家族への視点 2)多様性への理解 ①ライフステージ ②健康レベル ③地域特性 3)多様性に配慮した対象や看護の関わり方 4)地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働		
2.在宅で療養する人とその家族の心身の健康状態や生活状況をアセスメントし、支援の必要性について理解する。			1)身体・心理的状況 ①療養者の健康状態 ②既往歴・現病歴 ③発達課題 ④精神状態 ⑤認知機能 ⑥ADL ⑦IADL ⑧FIM 2)生活歴 3)生活・住宅環境・経済状況 4)介護状況 ①介護度・介護保険利用状況 ②介護保険居宅サービス ③家族への支援状況 ④家族の介護知識と技術 5)家族との関係性 ①家族の健康状態 ②介護に対する思い ③家族の生活時間 ④家族のライフステージの理解		
3.在宅で療養する人とその家族の価値観やニーズを理解する。			1)療養者の思いや希望 ①情報収集 ②コミュニケーション ③自己決定の尊重 2)家族の思いや希望 3)家族の支援 ①グリーフケア		
4.訪問マナーを守り、在宅で療養する人の価値観を尊重したうえで看護を実践する。			1)適切な訪問時のマナー ①接遇 ②挨拶 ③身だしなみ 2)療養者、家族に対するコミュニケーション ①インフォームドコンセント ②守秘義務 3)訪問看護師の看護の実践 ①在宅での物品の工夫 ②日常生生活援助方法と工夫 ③看取り 4)在宅療養者の安全・安楽 ①環境整備 ②在宅医療機器の取り扱い ③介護状況に伴う安全管理 ④緊急時対応		
5.在宅で療養する人の生活を維持していくための在宅における看護の特徴や看護師の役割を理解する。			1)受け持ち療養者の看護過程 ①状況に応じた看護と支援 ②在宅療養生活の希望 ③発達段階 ④健康レベル ⑤疾患 ⑥医療ケア 2)地域・在宅看護過程の目的と看護師の役割への理解 ①ICFモデル ②ストレングスへの着眼 ③ケアマネジメントの視点 3)在宅療養生活を維持するための看護実践と支援 ①看護計画立案 ②優先順位の設定 ③看護実践 ④問題の再検討 4)社会資源の活用 5)経済的支援と配慮 6)在宅療養生活上のリスク分析 7)在宅看護の役割と具体的な取り組み 8)地域・在宅における時期別の看護の実践 9)災害時における看護と支援		
6.在宅で療養する人の健康の保持・増進、生活維持のために活用できる社会資源や保健医療福祉チームの連携を理解する。 項目(規準) 15)在宅での生活を維持し総合的に支援するための法律について表現している 16)訪問看護ステーションで連携している職種や施設、連携方法について表現している			1)在宅療養関係法規 ①介護保険法・介護保険制度 ②医療保険 ③特定疾病 ④難病 ⑤障害者福祉法 ⑥生活保護法 2)社会資源活用の意義 ①地域の社会資源 ②療養者ニーズにそった社会資源の活用の提案 3)訪問看護利用における保険区分 ①介護サービス利用の手続き ②介護保険制度における居宅サービス ③日常生活自立度判定基準 ④ケアプラン ⑤訪問スケジュール 4)訪問看護ステーションの機能と役割 ①継続看護 ②ステーション運営 ③訪問看護に関する帳票 5)地域包括ケアシステム 6)社会資源の連携 ①ケアプラン ②サービス担当者会議 ③地域特有の社会資源 ④多職種 ⑤施設 ⑥医療機関 ⑦各種連携方法 ⑧地域密着型サービス		
7.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 ①安全面に配慮した看護 ②ハラスメント 2)個人情報の管理 ①プライバシー保護 ②個人情報保護法に遵守した活動 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) ①健康管理 ②出席管理 ③タイムマネジメント ④ルールの順守 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談(・確認) 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		

構成		
訪問看護ステーション		
回	時間	内容
1日目	2	【学内】 全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外 時間)	8	【学内】 ①実習オリエンテーション：施設の概要と実習全体の構成の把握 ②事前学習の確認：地域・在宅看護方法論Ⅰ～Ⅳの授業資料を用いた準備学習 ③訪問マナーの確認 ④知識確認プレテスト ⑤自転車の乗り方、注意事項の確認。ステーションまでの道のり確認。 ⑥技術練習(バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントなど) ⑦記録の書き方指導
3～4日目	16	【訪問看護ステーション】 ①施設オリエンテーション：施設の特徴、1日の業務の流れ、情報収集、受け持ち療養者決定 ②同行訪問、利用者への情報の整理(No1)、アセスメント(No6) ③学生カンファレンス：同行訪問中の気づきの語り合い、指導者へ質問 記録用紙：No1、2、3、6
5日目	8	【訪問看護ステーション】 ①受け持ち療養者、他、同行訪問 ②利用者への情報の整理(No1)、アセスメント(No6) ③受け持ち利用者への情報の整理とアセスメント(No2)、看護の方向性の決定(No3、4) ④中間カンファレンス(教員同席) 題目「看護の方向性の確認」 記録用紙：No1、2、3、4、6
6日目	8	【学内】 中間面談 ①各訪問看護ステーションでの学びの共有カンファレンス (場面の報告会、気づきの語り合い、看護の方向性について意見交換) ②看護援助計画の立案(No5、No7) ③援助技術練習 記録用紙：No1、2、3、4、5、7
7～9日目	24	【訪問看護ステーション】 ①同行訪問 ②看護計画、実施、評価、修正
10日目	8	【訪問看護ステーション】 ①受け持ち療養者、他、同行訪問 ②利用者への情報の整理、アセスメント(No6) ③看護計画、実施、評価(No5、6) ④受け持ち利用者への情報の整理とアセスメント追加修正(No2、3、4) ⑤最終カンファレンス(教員同席) 題目「看護の実施評価と実習の学びについて」 記録用紙：No1、2、3、4、5、6、7
11日目 (実践活動外 時間)	8	【学内】 ①各訪問看護ステーションでの学びの共有カンファレンス (看護介入場面の報告会、気づきの語り合い、意見交換) ②発表会準備：ロイロノートに発表資料を提出 ③発表会「施設の特徴、看護介入の実際、私たちの在宅療養看護観」 記録用紙：No9 ④確認テスト
12日目 (実践活動外 時間)	8	【学内】 ①記録整理：実施評価、修正の追記 ②社会資源、介護保険制度、地域包括支援システムに関する探求、実習場面に関連させた調べ学習 ③面談 ④記録提出

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	成人・老年看護学実習Ⅱ			時期	3年次
目的	急性(周手術)期にある対象の健康問題を理解し、それに適した看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
目標	1.成人・老年期の対象と家族の特徴について理解する。 2.急性期看護の特徴を理解する。 3.対象の回復過程を捉え、生活行動拡大のための看護を実践する。 4.急性期看護における看護師の役割について理解する。 5.対象が安心して治療できるためのチームアプローチのあり方について理解する。 6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90
実習目標			学習内容		
1.成人・老年期の対象と家族の特徴について理解する。			1)成人期・老年期の発達段階・発達課題の理解 2)入院前の生活背景の理解 3)日常生活上の健康管理法 4)現病歴・症状・既往歴 5)身体的な加齢変化における個人差の理解 6)治療生活に対する対象、及び家族の受け止め方 7)日常生活に影響を及ぼしている因子(疾患、症状、加齢など) 8)成人期・老年期におこりやすい疾患、症状の病態と健康レベルの理解 9)家族の支援状況や介護力		
2.急性期看護の特徴を理解する。			1)疾病の原因 2)機能障害の部位(器官)と程度 3)機能障害に伴う、検査・治療 4)麻酔侵襲・合併症の把握 ①呼吸、②循環、③体温、④意識・知覚、⑤排泄・代謝、⑥筋弛緩 5)手術侵襲・合併症の把握 ①術式 ②免疫機能と炎症 ③感染と創傷治癒過程 ③インアウトバランス(ムーアの分類) ④血液(栄養状態・電解質バランス・耐糖能) 6)手術による器質的・機能的変化 7)手術による日常生活への影響因子 8)医師からのインフォームドコンセントについての対象の理解度把握 9)フィンクやアギレラの危機モデルから自己概念の把握		

3.対象の回復過程を捉え、生活行動拡大のための看護を 実践する。	<手術当日> 1)手術前 ①一般状態観察 ②禁飲食・排泄の観察 ③更衣・貴金属の除去 ④手術室への移送 ⑤術後ベッド作成 2)手術中 ①麻酔導入(鎮静・鎮痛・筋弛緩)見学 ②体位変換(褥瘡好発部位・神経障害予防・DVT予防)見学 ③術中看護(器械だし看護師・外回り看護師)見学 ④麻酔中の生体反応(呼吸・循環・インアウトバランス・体温)把握 ⑤創傷・ドレーン管理の見学 3)手術後 ①病棟への移送 ②麻酔覚醒状態の観察 ③全身状態の観察 ④創部・ドレーンの観察 ⑤創痛の程度(NRS)の観察 ⑥インアウトバランスの観察 ⑦安静度の把握 ⑧血液(電解質バランス・耐糖能・酸素化・酸塩基平衡)の把握 <術後1日目> 1)離床前の一般状態の観察 2)離床の実践 3)苦痛緩和の計画・実施 4)合併症予防の計画・実施 5)全身清拭(陰部洗浄)の実施 <術後2日以降> 1)苦痛緩和の計画・実施 2)合併症予防の計画・実施 3)退院後の自己管理への指導計画の立案と実施
4.急性期看護における看護師の役割について理解する。	1)安全・安心・安楽な治療環境の整備と調整 2)生命の危機状態の対象への看護師の役割 3)急性期看護師の役割をふまえた自己の看護観の構築
5.対象が安心して治療できるためのチームアプローチの あり方について理解する。	1)生命の危機状態の対象を支援する多職種連携 2)社会資源の活用
6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。	1)責任ある行動 2)主体的な実習・学習 3)他者を尊厳・尊重する態度(誠実さ) 4)医療(保健)チームの一員としての人間関係の構築

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外時間)	8	①オリエンテーション実施 ②事前学習確認(周手術期看護の基本復習) ③受け持ち患者の疾患について学習 ④受け持ち患者の病態関連図作成〈麻酔・術式〉 ⑤受け持ち患者の援助計画作成(No7)〈術後ベッドの作成・術後の観察・離床〉
3日目	8	①病棟オリエンテーション、手術室オリエンテーション ②受け持ち患者の情報収集(No1・No2のSとO分類まで)
4日目	8	①情報収集・整理
5日目	8	②病態関連図(No3)から、急性期看護診断(No4)を導き出す。 ③手術(検査・治療)室搬送・手術(検査・治療)室見学、手術(検査・治療)室後の観察
6日目 (実践活動外時間)	8	④作成した援助計画(No7)について、援助の見学または実施 ⑤急性期看護診断に沿った行動目標や行動計画(No6)を立案し、援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施
7日目	8	⑥急性期看護診断に沿った援助を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ⑦受け持ち患者の回復期移行時や退院による患者変更を目安に、思考の整理(実践活動外時間)を設ける *提示の日程は仮日程であり、手術スケジュールに合わせて設定する：原則的に手術当日と術後1日目は臨地実習とする
8日目	8	⑧回復期に、急性期(手術侵襲・麻酔侵襲)状態をアセスメント(No2)する ⑨回復期は、看護計画(No5)に基づいた援助の実施
9日目 (実践活動外時間)	8	⑩回復期看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ⑪看護計画の実施について、患者の反応(No.6)を基に看護計画(No.5)の評価 ⑫追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施
10日目	8	⑬看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ⑭病棟担当者と共に中間面談(6日目)
11日目	8	①追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ②看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ③病棟担当者と共に最終面談
12日目 (実践活動外時間)	8	①追加・修正した看護計画についての評価(No5)・・・2回目 ②看護計画を資料にして学びの共有(事例検討) ③記録物の整理・提出 ④必要な知識の定着の確認

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	成人・老年看護学実習Ⅲ			時期	3年次
目的	成人・老年期の発達段階や特徴を踏まえ、健康管理、生活行動の自立、QOLの維持向上に向けた看護(慢期)必要な症状のコントロールや家族へのケア、悲嘆とプロセスに応じた看護(終末期)を実践する基礎的能力を養う。				
目標	1.成人・老年期の対象と家族の特徴について理解する。 2.慢性期～終末期における看護の特徴を理解する。 3.対象の人生観・価値観を尊重し、QOLを考慮した看護が実践する。 4.慢性期～終末期看護における看護師の役割について理解する。 5.対象が安心して治療できるためのチームアプローチの在り方について理解する。 6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90

実習目標	学習内容
1.成人・老年期の対象と家族の特徴について理解する。	1)成人期・老年期の発達段階・発達課題の理解 2)入院前の生活背景の理解 3)日常生活上の健康管理法 4)現病歴・症状・既往歴 5)身体的な加齢変化における個人差の理解 6)治療生活に対する対象、及び家族の受け止め方 7)日常生活に影響を及ぼしている因子(疾患、症状、加齢など) 8)成人期・老年期におけるこころの疾患、症状の病態と健康レベルの理解 9)家族の支援状況
2.慢性期～終末期における看護の特徴を理解する。	1)疾病の原因 2)機能障害の部位(器官)と程度 3)機能障害に伴う、検査・治療 4)セルフケア能力の把握 ①食事、排泄、活動・休息、清潔・整容、更衣、コミュニケーション能力 ②知覚(視覚、聴覚などの感覚機能など) ③認知(記憶力・判断力・HDS-R・MMSEなど) ④ADL、IADLの評価 5)身体的苦痛の把握 ①治療内容・効果と、それに伴う苦痛 ②病状を悪化する因子(栄養状態・感染) 6)症状コントロールの把握 ①疼痛、②倦怠感、③食欲低下、④嘔気・嘔吐、⑤便秘・下痢 ⑥吐血・下血、⑦浮腫、⑧呼吸困難 7)セルフマネジメントを阻害因子の把握 ①ADL行動規制 ②症状 ③ストレス(ストレス・コーピング) ④セルフモニタリング状況 ⑤障害受容(コーン)・ヘルスピリーブモデル ⑥自己効力感 8)死の受容過程(キューブラ・ロス)の把握 9)全人的苦痛(身体・心理・社会・スピリチュアル)の把握 10)スピリチュアルペイン(人生観・死生観)の把握 11)家族の心理状態の把握 12)社会的苦痛の把握 ①仕事上の問題 ②経済上の問題

3.対象の人生観・価値観を尊重し、QOLを考慮した看護を 実践する。	1)セルフマネジメントを促す、看護計画の立案と実践 2)アドボカシーを意識した意思決定支援 3)エンパワーアプローチの実践 4)アンドラゴジー(ジェロゴジー)への看護指導(教育)計画の立案と 実践 5)QOLを尊重した看護計画の立案と実践 ①疼痛コントロール ②ニーズに基づいた日常生活の援助 ③精神面への働きかけ 6)症状コントロールの看護計画の立案と実施 7)家族への支援 ①身体的・精神的疲労への援助 ②医療への希望聴取とコンサルテーション
4.慢性期～終末期看護における看護師の役割について 理解する。	1)対象が望む症状緩和やセルフマネジメント 2)対象の人生観・価値観を尊重し、その人らしさを支える看護師の役割 3)慢性期～終末期看護師の役割をふまえた自己の看護観の構築
5.対象が安心して治療できるためのチームアプローチの在り方について 理解する。	1)対象の価値観を尊重した生活を維持するための多職種連携 2)社会資源の活用
6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。	1)責任ある行動 2)主体的な実習・学習 3)他者を尊厳・尊重する態度(誠実さ) 4)医療(保健)チームの一員としての人間関係の構築

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外時間)	8	①実習病院オリエンテーションの実施 ②事前学習の確認 ③受け持ち患者の疾患について学習 ④受け持ち患者の病態関連図作成(No3) ⑤受け持ち患者の援助計画作成(No7) ⑥臨地実習初日の行動計画(No6)の立案
3日目	8	①病院オリエンテーション ②病棟オリエンテーション ③行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施 ④受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ⑤アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
4日目	8	①行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施 ②実施した援助について、SOAP形式で振り返る(No6) ③受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ④アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
5日目	8	①行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施 ②実施した援助について、SOAP形式で振り返る(No6) ③受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ④アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
6日目 (実践活動外時間)	8	①思考の整理(看護計画の実施に向けての準備、課題の整理や行動計画の作成) ②個別記録指導 ③技術練習
7日目	8	①看護診断(No4)をふまえた看護計画立案(No5) ②看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ④実習指導担当者と共に中間面談
8日目	8	①看護診断(No4)をふまえた看護計画立案(No5) ②看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6)
9日目 (実践活動外時間)	8	①初期計画カンファレンス(初期計画を資料にして、グループ内で検討する) ②思考の整理(看護計画の評価・修正に向けての準備、課題の整理や行動計画の作成) ③個別記録指導 ④技術練習
10日目	8	①追加・修正した看護計画立案(No5) ②追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6)
11日目	8	①追加・修正した看護計画立案(No5) ②追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ④病棟担当者と共に最終面談
12日目 (実践活動外時間)	8	①追加・修正した看護計画についての評価(No5)・・・2回目 ②学びの共有(事例検討) ③記録物の整理・提出 ④必要な知識の定着の確認

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	小児看護学実習			時期	3年次
目的	様々な健康段階・成長発達段階にある小児とその家族を理解し看護を実践する基礎的能力を養う				
目標	1.健康な乳幼児の成長発達および発達段階を理解し、成長発達過程に合わせたかかわりがわかる。 2.小児の健康問題の特徴を理解し、小児と家族に応じた看護がわかる。 3.小児と家族を取り巻く保健医療福祉の連携における看護の役割を説明できる。 4.小児とその家族へのかかわりや看護を通して、小児観および小児看護の役割を考察できる。 5.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90
保育園実習					
実習目標			学習内容		
1.健康な乳幼児の成長発達および発達段階を理解し、成長発達過程に合わせたかかわりがわかる。			1)健康な乳幼児の成長発達 ①身体的発達 ②運動機能の発達 ③知的機能の発達 ④コミュニケーション機能の発達 ⑤情緒・社会的機能の発達 2)基本的生活習慣の状況と発達 ①食事行動 ②排泄行動 ③清潔行動 ④衣服の着脱行動 ⑤睡眠 3)成長発達段階に合わせたあそび・学習 ①遊びの意義 ②社会性の発達に応じた遊び ③知的運動機能の発達に応じた遊び④発達に応じたおもちゃの選択 ⑤遊びの場の選択 ⑥遊びの支援 4)乳幼児への関わり方 ①コミュニケーションのとり方 ②褒め方・叱り方 ③誘導法 5)望ましい保育環境 ①物的環境 ②人的環境 6)発達の個人差 7)保育園における安全管理 ①遊具の選択と安全管理 ②衛生管理 ③事故防止		
			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		
2.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。					

病院実習	
実習目標	学習内容
1.小児の健康問題の特徴を理解し、小児と家族に応じた看護がわかる。	1)健康問題に伴う変化 ①健康障害の状況 (病態生理・症状・検査・治療方針・治療内容・身体的苦痛) ②入院が小児や家族に及ぼす影響 (日常生活面・心理面・家族の問題) 2)成長発達及び生活状況 ①成長発達(形態的発達・機能的発達・精神運動機能発達) ②家族構成と関係性 ③日常生活状況(基本的生活習慣の獲得状況・一日の過ごし方) 3)対象に必要な援助 (健康障害に応じた援助・成長発達に応じた援助・家族への援助) 4)対象の状況に応じたコミュニケーション 5)小児外来の特徴と、外来を受診する小児と家族への看護 ①外来診療の特徴 ②身体面への援助 ③心理面への援助 6)乳児健診と予防接種 ①乳児健診の必要性 ②乳児健診の実際と指導 ③予防接種の必要性 ④予防接種の実際と指導 7)病棟・外来における安全管理 ①構造面 ②環境調整 ③転倒・転落 ④誤飲 ⑤衛生面・感染対策
2.小児と家族を取り巻く保健医療福祉の連携における看護の役割を説明できる。	1)多職種との連携、看護の役割
3.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。	1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動

特別な支援が必要な小児【児童発達支援センター】	
実習目標	学習内容
1.小児の健康問題の特徴を理解し、小児と家族に応じた看護がわかる。	1)障がいのある小児の成長発達の特徴 2)障がいの日常生活への影響 3)障がいを持つ小児の成長発達を支える関り ④コミュニケーションのとりかた ②物的環境 ③人的環境 ④子どもの権利擁護
2.小児と家族を取り巻く保健医療福祉の連携における看護の役割を説明できる。	1)障がいのある小児と家族への社会的支援 ①チームアプローチ ②ネットワークと社会資源 2)安全管理 ①構造面 ②環境調整 ③衛生面・感染対策
3.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。	1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動
特別な支援が必要な小児【東京みらい中学】	
実習目標	学習内容
1.思春期の成長発達の特徴と、個性に応じた関わり方がわかる。	1)思春期の成長発達の特徴 2)特別な支援が必要な思春期の小児への関わり方
2.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす	1)事故防止、安全確保、感染予防の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた行動
実践活動外時間	
実習目標	学習内容
3.小児とその家族へのかかわりや看護を通して、小児観および小児看護の役割を考察できる。	1)自己の小児観と小児看護の役割の考察 ①健康に過ごす環境 ②健康障害や障がい成長発達に及ぼす影響 ③子どもの権利擁護
4.医療(保健・福祉)チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。	1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動

構成		
1日目 (実践活動外時間)	2	①全体オリエンテーション ②事前学習内容提示
2日目 (実践活動外時間)	8	①施設オリエンテーションの実施 ②事前学習・知識の確認 ③技術練習
保育園実習		
回	時間	内容
1日目	8	乳幼児の成長発達と養護、遊びの実際を学ぶ(小児看護学実習記録No2,No3)
2日目	8	乳幼児の成長発達と養護、遊びの実際を学ぶ(小児看護学実習記録No2,No3)
3日目	8	乳幼児の成長発達と養護、遊びの実際を学ぶ(小児看護学実習記録No2,No3)
病院実習		
回	時間	内容
1日目	8	①病棟オリエンテーション ②受け持ち患児の看護を見学・一部実施(小児看護学実習記録No1、No7)
2日目	8	受け持ち患児の看護を見学・一部実施(No7)
外来実習		
回	時間	内容
1日間	8	①外来オリエンテーション ②診察、検査・処置の見学
特別な支援が必要な小児		
回	時間	内容
1日目	8	①施設オリエンテーション ②発達段階と障がいに応じた学習や生活の援助を見学
2日目	8	①施設オリエンテーション ②特別な支援が必要な思春期の子どもたちと交流
実践活動外時間		
回	時間	内容
1日間	8	保育園実習のまとめを行い、学びを共有する
12日目	8	実習全体のまとめを行う 自己の小児観・小児看護の役割を記述する(No8) 実習後知識の確認

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	母性看護学実習			時期	3年次
目的	母性看護学で学んだ理論や方法を統合し、対象に応じた看護実践する基礎的能力を養う。				
目標	1.女性のライフステージ各期における特徴と課題を理解し、看護師の役割を考えられる。 2.妊娠期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を理解する。 3.分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を理解する。 4.産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を理解する。 5.新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応についての援助を理解する。 6.家族を含めた継続看護(母子関係確立のための支援)について理解できる。 7.母性看護実習を通して、生命の尊さがわかり、自己の母性観(親性観)を深めることができる。 8.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90
学習方法					
病院実習(婦人科外来)					
実習目標			学習内容		
1.女性のライフステージ各期における看護師の役割が理解できる。			1)婦人科外来の特徴 2)ライフステージ各期の女性の健康課題 3)婦人科外来における看護師の役割		
2.妊娠期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を理解する。			1)妊婦健康診査を見学 2)妊娠経過における妊婦と胎児のアセスメント 3)妊娠期の看護・保健指導見学 4)看護師の役割		
3.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)事故の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		
病院実習					
実習目標			学習内容		
1.妊娠期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を理解する。			1)妊婦健康診査を見学・一部実施 2)妊娠経過における妊婦と胎児のアセスメント 3)妊娠期の看護・保健指導見学 4)看護師の役割		
2.分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を理解する。			1)分娩各期の看護を見学・一部実施 2)分娩経過のアセスメント		
3.産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を理解する。			1)産褥期の看護を見学・一部実施 2)産褥期のアセスメント		
4.新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応についての援助を理解する。			1)新生児期の看護を見学・一部実施 2)新生児期のアセスメント		
5.家族を含めた継続看護(母子関係確立のための支援)について理解できる。			1)妊婦とその家族の継続看護 2)母子関係確立のための援助		
6.母性看護実習を通して、生命の尊さがわかり、自己の母性観(親性観)を深めることができる。			1)自己の母性観(親性観)		
7.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)事故の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		

実践活動外時間		
実習目標		学習内容
1.妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を理解する。		1)妊娠週数に応じた妊婦と胎児のアセスメント 2)妊娠週数に応じた妊娠期の看護
2.分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を理解する。		1)分娩期・分娩経過のアセスメント 2)分娩各期の看護
3.産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を理解する。		1)産褥期のアセスメント 2)産褥期の看護
4.新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応についての援助を理解する。		1)新生児期のアセスメント 2)新生児期の看護
5.家族を含めた継続看護(母子関係確立のための支援)について理解できる。		1)褥婦とその家族の継続看護 2)産後ケア事業・社会資源 3)母子関係確立のための援助
6.母性看護実習を通して、生命の尊さがわかり、自己の母性観(親性観)を深めることができる。		1)自己の母性観(親性観)
7.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。		1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)事故の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動
構成		
病院実習(婦人科外来)		
回	時間	内容
1日目	8	婦人科外来を受診する女性の様子を見学
病院実習		
回	時間	内容
1日目	8	産婦人科外来にて受診者の様子を見学・一部実施 分娩期・産褥期・新生児期の看護を見学・一部実施
2日目	8	産婦人科外来にて受診者の様子を見学・一部実施 分娩期・産褥期・新生児期の看護を見学・一部実施
実践活動外時間		
回	時間	内容
1日目	2	実習全体オリエンテーション
2日目	8	直前オリエンテーション
3日目	8	妊娠期の看護について学ぶ 演習
4日目	8	分娩期の看護について学ぶ 演習
5日目	8	産褥期・新生児期の看護について学ぶ 演習
6日目	8	産褥期・新生児期の看護について学ぶ 演習
7日目	8	産褥期・新生児期の看護について学ぶ 演習
8日目	8	家族を含めた継続看護について学ぶ 演習
9日目	8	母性看護学実習のまとめ 自己の母性観(親性観)について明確にできる

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	精神看護学実習			時期	3年次
目的	精神看護の対象を理解し、精神疾患を抱える対象のストレスに着眼し、その人らしい生活ができるよう支援することができる。				
目標	1.精神に障がいを抱える対象の特徴を理解する。 2.精神に障がいを抱えながら生活する患者への看護を実践する。 3.相互関係のプロセスの中で、患者と関わりについて理解する。 4.疾患や障がいを抱えながら生活するために必要な社会資源や医療・福祉チームの連携を理解する。 5.精神科看護の特徴を理解する。 6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90

学習方法	
病院実習	
目的	精神看護の対象を理解し、精神疾患を抱える対象のストレスに着眼し、その人らしい生活ができるよう支援することができる。
実習目標	学習内容
1.精神に障がいを抱える対象の特徴を理解する。	1)対象の発達段階・発達課題の理解 2)対象の生活に及ぼす影響と生きにくさ
2.精神科看護の特徴を理解する。	1)精神科病院における治療的環境 2)精神科における権利擁護の特徴 3)患者のリハビリ過程とその支援
3.精神科看護の特徴を理解する。	1)精神科病院における治療的環境 2)精神科における権利擁護の特徴 4)患者のリハビリ過程とその支援
4.精神科看護の特徴を理解する。	1)精神科病院における治療的環境 2)精神科における権利擁護の特徴 5)患者のリハビリ過程とその支援
5.精神科看護の特徴を理解する。	1)精神科病院における治療的環境 2)精神科における権利擁護の特徴 6)患者のリハビリ過程とその支援
6.精神科看護の特徴を理解する。	1)精神科病院における治療的環境 2)精神科における権利擁護の特徴 7)患者のリハビリ過程とその支援
精神施設実習	
目的	精神に障がいを抱えながら地域で生活する対象への支援の実際について考えることができる。
実習目標	学習内容
1.施設の概要、事業内容を理解する 2.施設を利用する対象への支援の必要性を理解する 3.施設を利用する対象と関わる 4.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす	1)施設の概要及び事業内容 2)支援の方法を考察 3)支援の実際 4)社会資源や医療・福祉チームの連携 5)支援活動の考察と自己の振り返り

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外時間)	8	①オリエンテーション実施(全体オリエンテーションを含む) ②自己学習追加状況の確認 ③導入面談 ④精神科看護DVD・視聴覚教材視聴 ⑤精神看護学実習の看護実践に向けて準備 ⑥受け持ち患者の病態関連図を作成(No3)
3日目	8	①病院オリエンテーション ②病棟オリエンテーション ③受け持ち患者決定(実習同意書締結) ④受け持ち患者の情報収集(No1～3) ⑤看護の方向性を導き出す(No4) ⑥看護実践(見学・共同実施・実施のいずれか) ⑦受け持ち患者との治療的関係を築く
4日目	8	①情報収集・整理(No1～3) ②看護の方向性を導き出す(No4) ③看護実践(見学・共同実施・実施のいずれか) ④受け持ち患者との治療的関係を築く
5日目 (実践活動外時間)	8	①思考の整理日(看護の方向性の検討と看護計画立案に向けてNo4) ②個人面談
6日目	8	①看護計画立案(No5) ②看護計画に基づいた看護実践(No6)(見学・共同実施・実施のいずれか) ③自己洞察と自己活用を図りながら、 ④受け持ち患者との治療的関係を築く ⑤プロセスレコード作成(No7)(実習7日目朝までに1回作成し提出)
7日目	8	①看護計画に基づいた看護実践(No6)(見学・共同実施・実施のいずれか) ②看護実践時の患者の反応をもとに看護計画の評価・修正 ③自己洞察と自己活用を図りながら、受け持ち患者との治療的関係を築く ④プロセスレコード作成(No7)(実習7日目朝までに1回作成し提出) ⑤病院実習での中間面談(臨地実習指導者との三者面談)
8日目	8	①看護計画に基づいた看護実践(No6)(見学・共同実施・実施のいずれか) ②看護実践時の患者の反応をもとに看護計画の評価・修正(No5) ③受け持ち患者との治療的関係を終結する
9日目 (実践活動外時間)	8	①看護計画評価 ②プロセスレコードの学びの共有 ③看護実践の学びの共有 ④個人面談 ⑤施設実習に向けての準備(オリエンテーションを含む)
施設実習		
回	時間	内容
10日目	8	①施設オリエンテーション ②当該施設の概要及び事業内容 ③支援活動の見学と共同実施 ④支援活動の考察と自己の振り返り
11日目	8	①支援活動の見学と共同実施 ②支援活動の考察と自己の振り返り
12日目 (実践活動外時間)	8	①病院実習と施設実習での学びの共有(複数Gの場合は合同で実施) ②最終面談 ③必要な知識の定着の確認 ④記録物の整理

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	統合実習			時期	3年次後期
目的	看護チームの一員としての役割を理解し、臨床判断能力や看護を実践する能力を養う				
目標	1.看護におけるチームの機能について学び、管理の重要性を理解する。 2.複数患者の受け持ちを通して、緊急性や優先性、時間管理ができる。また計画立案、及び、計画変更を行い、より良い看護を実践する。 3.多職種と連携・協働する場面を通じ、チーム医療における看護師の役割について理解する。 4.夜間帯の看護業務や患者の療養環境について理解する。 5.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	3	単位数	2	時間数	90
実習目標			学習内容		
1.看護におけるチームの機能について学び、管理の重要性を理解する。			1) 病院組織における看護管理の理解 ①看護組織の機能 ②看護理念 ③看護方式 ④病院看護機能評価 ⑤診療報酬 2) チームリーダーの役割の理解 ①部屋担当への情報交換 ②チームメンバーと他職種への連絡調整 ③夜勤への連絡・調整 ④医師他職種への連携 3) チームメンバーの役割の理解 4) シャドーイングを通して得た知識・技術の実践		
2.複数患者の受け持ちを通して、緊急性や優先性、時間管理ができる。また計画立案、及び、計画変更を行い、より良い看護を実践する。			1) 複数の受け持ち患者の問題の抽出 ①観察ポイントや症状の経過 ②複数患者へのケア 2)意図的な情報収集、情報交換の実施 ① 患者の状態・治療・処置について 3) 複数患者の計画の立案 ①患者の安全性、緊急性、重症度 ②患者のコード ③予定された検査・処置・治療の把握 ④ケア実施の内容・時刻・方法 ⑤病棟内チーム構成の把握 ⑥割り込み予測 4) 患者への支援の必要性の判断 ①対象との関わり、観察 ②全体の段取り調整 ③ケアの個別性 ④患者との関係性を考慮 ⑤受け持ち患者の同室者への配慮 ⑥実習メンバーの動向の把握 5) より良い看護の実践 ① 患者のイレギュラー発生時の計画変更 ②実習メンバーでの協力体制 ③情報共有 6) 適時適切な報告・評価 ①段取りと実践 ②実習メンバー内での協働		
3.多職種と連携・協働する場面を通じ、チーム医療における看護の役割について理解する。			1) 患者に関わる多職種の役割や支援の理解 ①多職種からの情報の看護チームへの共有 ②連携後の看護への反映		
4.夜間帯の看護業務や患者の療養環境について学ぶ。			1) 夜間帯の患者の状況把握 ①患者の思い・訴え ②患者の様子 2) 夜間帯の日常生活援助の特徴の理解 ①使用薬剤 ②就寝準備 ③睡眠導入・睡眠状況 ④休息の保障 ⑤安全に伴う環境調整 3) 夜間帯の看護提供体制の理解 ①少人数勤務での連絡体制 ②緊急時の連携		
5.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)責任ある行動 2)主体的な実習・学習 3)他者を尊敬・尊重する態度(誠実さ) 4)医療(保健)チームの一員としての人間関係の構築		

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション ① 実習スケジュールの確認 ② 夜間実習の留意点について確認 ③ 複数受け持ちにあたって、優先順位・時間管理をふまえた記録の確認 ④ 複数受け持ち時の行動計画練習
2日目 (実践活動外時間)	8	① 各教員より病院オリエンテーションの実施 ② 事前学習の確認 ③ 複数受け持ちにあたって、優先順位・時間管理をふまえた記録の再確認 ④ 技術練習、援助計画の作成・見直し
3日目	8	① 病院、病棟オリエンテーションを受け、病院組織における看護組織体制について理解する (看護部長講義、病院・病棟の特徴や物品などのオリエンテーション) ② 患者選定、同意書の取得、及び、情報収集
4日目	8	メンバー看護師、または、チームリーダー看護師につき、1日シャドーイングを行う ① 受け持ち患者 2 名の情報収集を行い、全体関連図を作成する
5日目	8	② 全体関連図を作成し看護診断を抽出する(No 2 を必要時活用する)
6日目	8	患者の複数受け持ち ① 立案した看護計画を実施する
7日目	8	② 2名の受け持ち患者のタイムスケジュールをふまえた行動計画を立てる
8日目	8	③ チームメンバーのスケジュールを把握し、時間内にすべて終了できるよう協力をする ④ 突発事象への対応、報告を行う
9日目	8	夜間実習 または 学内実習 ① 夜間実習：夜間常勤務の看護師のシャドーイングを行う ② 学内実習：実践活動外時間
10日目	8	1)思考の整理日(看護計画の修正・評価、課題の整理・情報共有) 2)技術練習
11日目	8	患者の複数受け持ち ① 立案・修正した看護計画を実施する ② 2名の受け持ち患者のタイムスケジュールをふまえた行動計画を立てる ③ チームメンバーのスケジュールを把握し、時間内にすべて終了できるよう協力をする ④ 突発事象への対応、報告を行う
12日目 (実践活動外時間)	8	① 学びの共有(No 8、まとめ記載) ② 記録物の整理・提出 ③ 必要な知識の定着の確認 ④ 最終面談(2 者面談)